

## 水稻育苗箱を利用したチャの省力化育苗

農業研究センター 茶業研究所  
担当者：小野亮太郎

### 研究のねらい

チャの育苗技術として、ペーパーポットを用いた方法が普及しつつある。しかし、従来の深さ15cmのペーパーポットを用いた方法は、1コンテナの重量が大きく、挿し木や定植時における運搬などの作業性が悪い。そこで、作業労力の軽減を図るため、水稻育苗箱を利用し、ペーパーポット苗の軽量化を図った。

### 研究の成果

- 1 深さ5cmのペーパーポットは1コンテナの重量が15cmポットと比較し、1/3以下と軽いため、挿し木及び定植時の労力が軽減される(表1)。
- 2 深さ5cmのペーパーポットを用いても、深さ15cmのペーパーポットに劣らないチャ苗の生育ができる(表2)。
- 3 深さ5cmのペーパーポット苗の定植後の生育は、普通苗(2年生苗)と比較してもほとんど変わらない(表3)。

### 普及上の留意点

- 1 挿し穂の調整は、2節2葉で軸足の長さを2cmに揃える。
- 2 深さ5cmペーパーポットは土層が浅く根域が狭いため、育苗期間は6月挿しの9月定植、または9月挿しの翌年3月定植で行う。ポット径は4cm~6cmの規格があるが、ポット径の違いによる生育差はほとんど見られないため、作業効率の面から4cm径が良い。
- 3 育苗はビニル被覆法で行うが、水稻育苗箱使用のためほ場からペーパーポットへの水分供給が不足する場合があるので、挿し木後2ヶ月間は床土の乾燥度合いを見て2~3回の灌水を行う。
- 4 育苗における経費は、既存の水稻育苗箱及びトンネル被覆資材を使用する場合、苗1本当たり、消耗品のみで2円、労働経費を含めて10円程度となり、通常購入する2年生苗30円~40円に比べて経済的である。

表1 深さ5cmポットと15cmポットの重量の比較

ポット深さ (cm)	コンテナの規格 (cm)	挿し木本数(コンテナ当たり) (本)	定植前コンテナ重 (kg)	挿し木1本当たり重 (kg)
5	60.5 × 30.5	105	10.8	0.10
15	62.5 × 43.5	130	38.1	0.29

表2 定植後の生育量の比較(深さ15cmポット苗との比較:赤黄色土ほ場)

ポット深さ (cm)	定植半年後				定植1年半後	
	樹高 (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	活着率 (%)	樹高 (cm)	株張り (cm)
5	32.1	3.7	2.1	84	68.5	39.8
15	34.0	4.3	2.0	96	62.8	38.1

(注)挿し木日(平成11年10月2日)、定植日(平成12年3月14日)

白黒ダブル穴あきマルチによる定植、株間60cm条間60cm千鳥植え

調査株は全て無せん枝、各区とも50株について調査

定植半年後は平成12年10月2日、定植1年半後は平成13年10月4日調査

表3 定植二年後の生育量の比較(普通苗との比較:黒ボク土ほ場)

苗の種類	樹高 (cm)	株張り (cm)	茎径 (mm)	分枝数 (本)
5cmポット苗	106	64	19	21
普通苗(二年生苗)	101	69	21	22

(注)挿し木日(平成11年10月2日)、定植日(平成12年3月)

株間60cm条間60cm千鳥植え、各区とも20株について調査

平成14年2月25日調査、分枝数は10葉以上付いている枝の数



写真1 挿し木方法(水稻育苗箱にポットを設置した状態、床土充填、挿し木した状態)



写真2 定植半年後の生育状況(左:普通苗、右:深さ5cmポット苗)